

日本精神対話学会 NEWS 第3号 “We Love MCC!!”

Mental Care Conference

発行：日本精神対話学会
発行日：平成24年1月20日
発行責任者：興石邦彦

平成23年11月5日（土）・11月6日（日）国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第6回日本精神対話学会が、盛況のうちに終了しました。

参加者数：131名

提出論文数：40編



(CD)



(抄録集)

論文集（CD、抄録集付）ご希望の方は、学会事務局までお問い合わせください。（定価3,000円）

全国から多くの精神対話士の皆様や外部からの特別参加の皆様にお集まり頂いたことで、とても有意義な議論、研究交流等が行われました。学会における知識や経験の積み重ねの論議が、精神対話学を形成し、私達の活動の基礎になっていくものと確信しています。これからも、全国の多くの皆様に積極的にご参加頂き、一人一人の資質を高めていける場として、また切磋琢磨していける場として、学会を盛り上げていきたいと思っています。最後になりますが、今回の学会の運営に際しましては、多くの皆様にご協力を頂き心から感謝申し上げます。そして次回のご参加もお待ちしております。

第6回日本精神対話学会会長 興石邦彦

第6回 日本精神対話学会 Warm Heart Forever



第1日目 11月5日（土）

- 10:00 挨拶 佐藤登志郎名誉会長
- 10:30 基調講演『変化する若者とどう向き合うか』
協会講師 速水敏彦先生（名古屋大学大学院教授）
- 11:45 研究論文審査結果（推奨論文）発表
- 12:00 《昼休み》
- 13:00 推奨論文受賞論文発表
- 15:45 研究会（シンポジウム・全体討論）
- 17:30 懇親会

第2日目 11月6日（日）

- 10:00 研究分科会
- 12:00 《昼休み》
- 13:00 研究分科会発表
- 14:00 特別講演『対話—説得と納得』
協会顧問 増島俊之先生（元総務事務次官）
- 14:45 推奨論文表彰式
- 14:55 講評 興石邦彦学会会長
- 15:00 財団法人メンタルケア協会挨拶
- 15:15 閉会



第1日目



当日は、早朝のスタッフミーティングで始まりました。

壁には、「心のケア・ボランティアの活動記録」が貼りだされました。



【スタッフの一言】

初めてお会いする方々が多いなかでの初準備委員を経験させていただきました。私は受付と書籍販売を担当。学会記念グッズの可愛いアヒルマーク入りピンク色（第6回学会カラー）のクリアファイル（5枚セット）は好評でした。個人的に（世の愛の架け橋になるように七色のファイルを集めたい…）と密かに期待しております。参加名簿をチェックしながら、（志を持ちそれぞれの地で活動しているって素晴らしい。そしてそんな仲間が全国にいるって心強いな）と胸が熱くなりました。私の背中を押してくれた気がします。 宮崎良子



満員になった会場で、参加者がガイダンスに耳を傾けています。

【スタッフの一言】

全国から参加していただいた精神対話士の方とお話ができ、スタッフにやさしい労いのお声をかけてもらい人と人が繋がるうれしさを感じました。ありがとうございました。 吉村幸子

【スタッフの一言】

メンタルケア協会にご指導ご協力いただき、又準備委員の方々は仕事や家庭のことをなさりながら快く協力してくださいました。全国の精神対話士の方や特別会員の方との意見交換や交流の場が持て皆さまのおかげで実りある学会が開催できたこと嬉しく思います。学会の更なる発展のため、今後も皆さまのご協力よろしくお願いたします。 事務局長 永井信子

【スタッフの一言】

学会では、皆様一人一人の熱い思いを感じ、いい刺激を頂くことができました。あの暖かな雰囲気は正に、精神対話士ならではの、ですね！私自身もとても癒された思いです。学会に参加できたこと、とても嬉しく思います。ご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。 松本 千秋



速水敏彦先生

【基調講演】

協会講師 速水敏彦先生（名古屋大学大学院教授）から基調講演『変化する若者とどう向き合うか』をご講義いただきました。

若者の自尊感情の不安定からくる先生ご提案の仮想的有能感そして新型うつ病との関係などについて今まさに重要な学習テーマに参加者一同熱心に聞き入りました。

【スタッフの一言】

今回の学会で発表・討議されたことと同時に、学会論文集CDの中に、素晴らしい内容・それぞれの精神対話士、特別会員の思いがたくさん詰まっています。是非熟読下さいますように。学会事務局長補佐 勝沼靖

【推奨論文受賞論文発表と研究会（シンポジウム・全体討論）】



推奨論文受賞論文として11の論文が選出され、発表に続き、シンポジウム・全体討論が行われました。

受賞者	課題
青木起郎（精神対話士）	精神対話による心の癒しの仕組みと人間の本質について—無意識を意識化できる精神対話効果—
浅田雄三（特別会員）	聞こえない世界における「対話」を考える—中途失聴・難聴者との交流を通して—
漆野陽子（精神対話士）	“クライアント中心療法” から「精神対話士の在り方」を考察する
鏡俊一（指導精神対話士）	対話というヒューマンケアⅤ —「ことば」について①—
坂本照夫（指導精神対話士）	病が「治癒する（なおる）」ということ—精神対話士の役割と課題—
篠崎家佐公（精神対話士）	ストレス社会を克服する精神対話 —東日本大震災から学ぶ—
立入聖堂（指導精神対話士）	同一家族内の複数のクライアントと関わる対話について—精神疾患患者を抱える家族の事例から—
田中正明（精神対話士）	災害被災者への精神対話士の支援活動についての—考察 —福島への支援活動を通して学んだこと—
西村明美（精神対話士）	高齢者との対話における回想法の効用と今後の対応
平尾彩子（精神対話士）	現代日本社会における精神対話士の存在意義
安永延子（精神対話士）	クライアントの心に寄り添う精神対話士としての役割を考える

【東日本大震災 心のケア・ボランティア 中間報告】



メンタルケア協会が派遣した心のケア・ボランティアの中間報告が心のケア対策本部、勝沼靖本部長から行われました。

【懇親会】



恒例の地域対抗合戦では、全員で見事な踊りを披露した近畿ブロックが優勝トロフィーを手に入れました。

懇親会にも多くの方が参加され、よい交流の場になりました。
(日頃見られない、意外な一面も発見できました！)

【スタッフの一言】

スタッフとしての仕事は大変なのですが、皆さんとても楽しんでおられたのにビックリしました。こんな学会は初めてです。スタッフの一員に加えていただき、一番得をさせていただきました。

田中正明



【スタッフの一言】

多くの方が参加され、その上皆さまの真剣な眼差しを拝見し委員の一人として大変嬉しく思いました。今後もメンタルケアに関して大いに意見交換ができる場としての学会であり続けて欲しいと願っています。懇親会も楽しかったですね。

会場・司会担当 坂本照夫

スタッフの細やかな気配りが、学会をより良いものにしてくれました。



第2日目

【研究分科会】



漆野陽子精神対話士：“クライアント中心療法”から「精神対話士の在り方」を考察する



坂本照夫指導精神対話士：病が「治癒する（なおる）」ということ



立入聖堂指導精神対話士：同一家族内の複数のクライアントと関わる対話について



田中正明精神対話士：災害被災者への精神対話士の支援活動についての一考察

参加者の投票で上位に選ばれた論文4テーマについて、分科会でさらに議論を深めました。

【特別講演】



増島俊之先生

協会顧問 増島俊之先生（元総務事務次官）から、特別講演『対話—説得と納得』をご講義いただきました。人の心を動かすということはどういうことなのかについてご自身の体験と西洋紀聞より宣教師「シドチ」の生き様から先生のユーモアを交えたお話は深い感動を呼びました。今後の私たちの活動のためのたくさんのヒントを得ることができました。

【スタッフの一言】

久しぶりに同期の方とも会え、懇親会にも出席し、有意義な2日間でした。私は、皆さまの論文を学会初のCD形式で作成するお手伝いをさせていただきました。また第7回の学会で皆さまとお会いするのを楽しみにしております。前田美香

【スタッフの一言】

私は、写真担当として参加しました。論文発表や分科会など、写真撮影ならではの厚かましきで、ファインダーを通して学会の全体的な様子を見ることが出来ました。また、写真担当をしたことで沢山の参加者や、スタッフの先生方と知り合う事ができ、よりいっそう精神対話関係者を身近に感じるようになりました。この素晴らしい経験を今後いかに発展させていくかが、今後の私の課題となりました。

丸田實

日本精神対話学会 事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-5-8 カーデ青山 201 財団法人メンタルケア協会内
TEL 03-3405-7270 FAX03-3405-8580 E-mail:mca@mental-care.jp